

つっかいぼう通信第84号

編集／特定非営利活動法人障害者自立センターつっかいぼう

〒502-0843 岐阜市早田東町8丁目4-1 パセール長良 103号

TEL058-215-7374 Fax 058-296-5343

e-mail tsukkaibo@ip.mirai.ne.jp <http://tsukkaibo.com> 発行／2018年12月28日

つっかいぼう設立30周年記念講演会

「障害者の自立って、何？」を聞いて

7月15日、つっかいぼう設立30周年を記念して講演会を行いました。三連休の中日である日曜日でしたが、講師の熊谷晋一郎さんへの関心の高さからか120名を超える方々が参加してくださいました。生憎今回は体調を崩され会場に来ていただくことが出来ませんでした。スカイプという方法で講演をしていただくことが出来ました。

障害者の自立がテーマで様々な重要な事をお話されましたが、その中で「共生社会と暴力社会は対義語である。暴力をふるう人と暴力を振るわれる人は対極にあるかと言えばそうではなく、その位置は思いのほか近い。人には暴力に巻き込まれやすい人とそうでない人があるが、巻き込まれやすい人は社会にたよる物が少ない人、たよる物、例えば、人、制度、エレベーター等の物理的な環境等である。70年代は大規模入所施設だけだった。虐待（暴力）をする人はデータによれば家族、支援者、教師、身近なケアの責任者、社会から世話を押し付けられている人達。自立とは依存先を増やす事。依存先が少ないと依存先に支配されてしまう。依存先が少なければつながりが太くなってしまいが、多ければ一つ一つのつながりは細くなり依存していることを感じなくなる反比例の関係。依存先を広げるには長期的には仲間と力を合わせ社会に訴えたり政治に働きかける事と自分の弱さを公開していく事が必要。」という部分があり、「依存先」という言葉・概念が多くの方の心に残ったようでした。自立や差別などについて従来の考えと異なるわけではありませんが、新たな視点で話され、改めて活動を考えるに良い機会でした。

つっかいぼうも一人一人が依存先を増やす事、また誰かの依存先になる事を実践していきたいと思っております。最後になりましたが、長年支えてきて下さりありがとうございました。今後ともよろしく願いいたします。(吉田)

台風の日

去る9月4日、台風21号は大変強い勢力を持ったまま上陸し、接近に伴い東海地方も記録的な暴風になり大規模停電が発生した。岐阜市でも地域によって停電になり、人口呼吸器をつけて地域でくらすIさんも4日昼過ぎに停電に見舞われた。停電は人工呼吸器を利用する人にとってはまさに死活問題となる。呼吸器は通常コンセントから供給される外部電源を使用するが、外部電源が切れると内部電源（内部バッテリー）に自動的に切り替わり、8時間程呼吸器を駆動させる。Iさんはこのような大規模災害に備え、それ以外に次の電源の確保をしている。

「外部バッテリー」 1台約6時間駆動。

「エネポ(ガスパワー発電機)」 1台 カセットガスボンベ2本で2.2時間駆動。バッテリー2台で10数時間、エネポではボンベの数だけの時間が確保できる。その日は二つのバッテリーを使い、対応できる時間を考えて、業者にバッテリーの電源が切れる前に別のバッテリーを持ってきてもらうよう依頼した。業者は外部バッテリーを準備し待機してくれたが、翌朝5時半近くに電気が復旧したので持ってきてもらう必要はなくなり平常に戻った。

Iさん宅には自分で準備している予備のバッテリーとエネポがあったのと業者の即の対応があったので良かったが、それらが無ければ命を繋ぐものはアンビューしかない。しかし一人のヘルパーでアンビューを押し続けるのは限界がある。

在宅で確保できる電源には限度がある。しかし避難場所では電源は確保できるのか？ 避難場所に行く移動方法？ 避難場所での生活は？ 福祉避難所に移れるにはまず一般の避難所に行かなくてはならないのか？ 避難すべきか留まるべきか、避難できるのか出来ないのか？ 不安や疑問がさらに大きくなった。

今年は自然災害が多く、9月30日から10月1日にかけてにも台風24号がやってきた。このあたりは土地が低く浸水が多い地区であるという地区の役員から情報もあり、Iさんは避難をすることにした。

避難先はいつも利用する病院で、夕方、とりあえず入院という形をとり、移動はいつも利用する個人タクシー、風雨が酷くなる前なら動けるとの事だった。

夜になって岐阜市全域に「避難準備・高齢者等避難開始の発令」が出、更に「大雨注意報、土砂災害注意、浸水注意」が出たが間もなく解除され、Iさんの自宅付近は何の被害もなかった。病院の滞在時間は30日夕方5時30分から1日朝8時30分。水害や停電の心配をせずに過ごす事が出来た。Iさんとはこれまでも何度か避難について話し合い、準備出来るものはある程度そろえてきた。今回緊急事態に対

応出来て良かったと思う。今後更に不備が無いように詰めて行きたい。

Iさんからの一言…「避難所で電源の確保をすることはできないのでは?バッテリーがある場合には使えると良い。地区委員からは、消防署に行った方が保護してもらえるのではとされているが。」

私は何の心配もせず何の準備をするつもりもなかったが発令が立て続けに出ると少々気持ちがザワザワし、本当に非難しなければならないときはどうやって行ったらいいのだろう、早めの避難が言われているが避難先での生活はどうなるのだろうか不安になる。

本郷小学校の体育館での避難の体験を思い出した。あの時は車いすに座ったままで、車イス用のトイレは外の公園の一角、暴風雨ではたどり着けるかどうか…。家にいた方が楽かと思った。

防災について考えないといけないと痛感する。

重い障害を持つ人や単身で暮らす障害者、高齢の家族と暮らす障害者には個別の具体的な避難プログラム、障害や病気の状態、家族の状態、地域の協力体制、その人の持つ社会関係や利用出来るフォーマル・インフォーマルのサービス、地域の社会資源を駆使して安全な個別の現実的な避難体制作りが必要かと思った。

皆さんのところではいかがでしたか。(吉田)

※ バッテリーで呼吸器を駆動出来る時間はIさんの呼吸器についてのものです。駆動できる時間はバッテリーによって違い、古さや充電の状態により変わります。

編集後記

この通信が皆さまの手に渡るときは、年末の忙しい時か新年を迎えての時だろうか。いずれにしても二〇一八年も大変お世話になりありがとうございました。振り返れば長いような短いような三十年、関わって下さったその時々の人や場面が浮かびます。個人的には多くの方々のご協力が有りながら、これだけの事しか実現させられなくて申し訳ない気持ちです。命の大切さは同じなのに障害があると軽んじられ、亡き者にされてしまう時代ですが、その事を障害者自身が仲間と共に「NO!」と言えるようにもなつたと思います。

三十一年目、どんな重度な障害を持っていても地域で当たり前に暮らせるように介護や相談、仕事、グループホーム等の生活の場を仲間ともっと広げ充実させていきたい。

自分と人を本当に大切にしていきたい。今年もどうぞ宜しくお願い致します。

(吉田)

新年を祝う餅つき会のご案内

恒例のビー・カンパニー主催の餅つき会です。

合わせてビー・カンパニーの障害者スタッフの新成人のお祝いも行います。

お餅をついて、食べて、交流して、新しい年と門出をお祝いし今年1年を誰もが幸せな年にしましょう。

日時 平成31年1月19日(土) 10時~14時 雨天決行

場所 ビー・カンパニー内

会費 一人 200円

●1月11日(月)までにTel又はFaxにて参加人数をお知らせください。

お願い お餅のつき手、返し手、その他様々な準備を一緒にして下さる方を募っています。ご協力していただける方も、お知らせください。軽めの小さい杵もあります。

連絡先 ビー・カンパニー 担当 安村 Tel・Fax (058) 214-8114

餅つきは3回に分けて行います。つきあがったらあんこやきなこをつけて美味しく頂きます。豚汁もありますよ。

餅つき予定時間

◆1回目 10時半ごろ～ ◆2回目 11時半ごろ～ ◆3回目 12時半ごろ～

新年を祝う餅つき会参加申し込み書 Fax用

餅つき会に () 参加します () 一緒に準備します。	
住所	連絡先
参加者 全員の方の氏名・年齢をお願いします	
備考 何か必要があればご記入下さい	